

土木学会

平成18年度 全国大会研究討論会「研12」

技師から義士へ！

退役土木技術者はボランティア・エンジニア

座長	： 藤田 俊英	NPO法人ビーヴ, コンサルタント委員会委員・幹事
話題提供者	： 角野 昇八	大阪市立大学
	三宅 雅子	作家, 土木学会出版文化賞受賞者
話題解説者	： 日下部 治	東京工業大学, コンサルタント委員会委員長
	須田 日出男	NPO法人社会工学研究所, 「土木施工誌」編集委員
司会	： 田中 弘	日本工営(株), コンサルタント委員会幹事長

平成18年9月20日(水)13:00~14:30

立命館大学 プリズムハウス P203

主催：土木学会コンサルタント委員会

土木学会 平成18年度 全国大会研究討論会「研12」 プリズムハウスP102

技師から義士へ！ 退役土木技術者はボランティア・エンジニア

主催:コンサルタント委員会

当委員会の最新活動分野である「合意形成プロデュース」と「エンジニアリング・デザイン教育」の斬新な成果を、さらに飛躍・発展させて一般社会への公益に繋げるため、社会全般の関心事項である“団塊世代問題”に当てはめ、数年先に大量に発生する退役団塊土木技術者が“一般社会から期待される生き方”について討論する。3百年前の大和川付替え功労者の中甚兵衛翁を角野が、土木学会映画三賞受賞作“掘るまいか”の企画から製作の過程を三宅が紹介し、この二例を日下部と須田がエンジニアリング・デザインと合意形成プロデュースの側面から解説する。

その後、会場全体が団塊世代を変数に二例を積分した“生き方”の解を求め、退役土木技術者がボランティア・エンジニアとなる方向性を探る。

1. 出演者

座長	: 藤田 俊英	NPO法人ビーヴ, コンサルタント委員会委員・幹事
話題提供者	: 角野 昇八	大阪市立大学
	三宅 雅子	作家, 土木学会出版文化賞受賞者
話題解説者	: 日下部 治	東京工業大学, コンサルタント委員会委員長
	須田 日出男	NPO社会工学研究所, 月刊「土木施工誌」編集委員
司会	: 田中 弘	日本工営(株), コンサルタント委員会幹事長

2. 開催日時・場所

日時: 平成18年9月20日(水) 13:00~14:30

場所: 立命館大学 びわこ・くさつキャンパス プリズムハウスP102

3. 討論会進行予定

①話題提供者によるボランティア・エンジニアの参考事例紹介2件 各15分程度

②話題解説者による紹介事例の土木工学最新2分野からの分析 各15分程度

エンジニアリング・デザイン分野と合意形成プロデュース分野

③会場を交えた研究討論

キーワード: 技師, 義士, 団塊世代, 土木“新”工学

④座長による総括

4. ご意見など

土木学会のHPにコンサルタント委員会HPを開設しています。当委員会や、本日の研究討論会のご意見をお願いします。本日はご参加ありがとうございました !!

<http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/>

「河内音頭 大和川物語 ～中甚兵衛編～」

作 詞 中 好幸

補作・歌唱 日之出家小露丸

歌詞抜粋

- ♪ ええ わが町憩いの堤防沿いに 川に向かって凛々しく建つは
一人の男のブロンズ像 今はやさしく堺の方へ 流れる川に想いをはりゃ
三百年のその昔 汗と涙と血にまみれ ごっつい苦勞をしたそうな
勿論川は大和川 宝永元年付替の 工事はたった八ヶ月 茨の道のり五十年
- ♪ ええ 南北大河を切り離し 大和川を九十度 方向転換せにゃならぬ
必死の思いで知恵絞り 見事な計画練り上げた 時は明暦三年の・・・
甚兵衛歳は二十歳前 命をかけて江戸直訴 遂にお上を動かした
幕府の役人検分に それをば知った新川筋の村々が 先祖代々受け継いだ
田畑取られてなるものか 反対運動巻き起こす・・・
川替え願う村々と 反対叫ぶ村々が 互いに譲らず睨み合う
何とか解決せんものを 色々議論はしたけれど 決定的な案はなく
中止の沙汰を繰り返す ♪
- ♪ ええ 甚兵衛一人を呼びよせて 話を聞いたお奉行は
一つ一つもっともじゃ よくぞ調べた甚兵衛よ 工事着工の暁は
よろしく頼むと言われた時に 万感胸につまりきて
初めて見せたうれし泣き ♪
- ♪ 時は元禄十六年 お沙汰が下りて「川違え(たがえ)」
思えば人生五十年 長の年月苦勞して 死んだ同士も教知れず
六十五歳の甚兵衛は 老いの身体に鞭打ちて
工事は完成させると みなぎる自信と心意気
倅・九兵衛従えて 見事成し得た「川違え」
お礼のために江戸下り 直訴の思いが去来する
これで全てが終わったと 頭丸めて仏門へ
古い川筋・池の跡 多くの土地が新田に
河内木綿も花開く 大阪繁栄基礎築く 中甚兵衛の苦心談
丁度時間となりました ♪

時論

奈良にその源流を遡し、生駒山麓と葛城山麓の間を柏原に出石川と合流後に西流して大阪・住吉と堺の間で大阪湾に注ぐ大和川は、古代より生活の中において人々に親しまれてきた歴史ある河川である。現在は淀川と並んで大阪府を流れる一級河川であり、重要な社会基盤の一つである。ところが、この川はその水質が悪い(2003年は日本一悪かった)ことではよく知られているが、その柏原以西は約16kmの区間は、実は江戸時代に入工的に開削された水路である。この地元でも案外知られていない。

草の根レベルで社会基盤理解



大阪府立大学大学院工学研究科 都市系専攻教授・副学長

角野 昇八

これまで、柏原から久宝寺川・橋根川・玉櫛川と分流して生駒山脈にそって北上し、深野池・新開池を経て再び合流・西流して大坂(大阪)城の京橋で淀川(現大和川)に合流していた古大和川の主流は、17世紀以前にたびたび洪水を起し、生駒と大坂ではさまれる河内の地に深刻な被害をもたらしていた。これを重く見ていた地元の庄屋中甚兵衛は幕府に川の付け替えを訴えていたが、ついに彼の死後の1704年(元禄16)年2月になってそれが実現した。今年はその大和川下流が開削されてからちょうど300年の年にあたる。工事は元号が変わった(宝永元)年10月に完成することになった。8カ月で16kmというには昼夜敢行でも毎日ほぼ70分を拓いたことになる。旧建設省の故岡正和氏によれば、現代社会と同じ事業を行おうとすれば土地の買収を含めて20年を要する工事だというからすさまじい速さの工程であることが理解される。

この大和川開削はその後の大坂に非常に大きな影響を与えた。例えば、埋め立てられて水はけの良い川筋などに植えられた綿は河内木綿として全国的に名をとりださるとともに、明治期以降の大坂における紡績業興隆の礎となったといわれている。また、新開池を拓いて新田を経営した福地家は巨万の富を築いて今に至るまで各所に名を残している。その一方で、新しい河道は大量の土砂を堺の町にもたらして港を埋め、港町堺の没落と海際の新田をもたらしたことも知っておかねばならない。

木綿として全国に名をとどろかせるとともに、明治期以降の大坂における紡績業興隆の礎となったといわれている。また、新開池を拓いて新田を経営した福地家は巨万の富を築いて今に至るまで各所に名を残している。その一方で、新しい河道は大量の土砂を堺の町にもたらして港を埋め、港町堺の没落と海際の新田をもたらしたことも知っておかねばならない。

新・古大和川流域を走り、歴史と文化の中の土木を考える

そのみならず、マンナの面からのまじりこみで立憲議員として、NPO法人「市民歩行者協会」を立ち上げ、自らその会長にもなましている。シビルエンジニアであるが、このマラソン大会はその学会の趣旨にも合致したものに、なり氏は大会の責任者となって終身奮闘された。

歴史に思いをよせ、もう一つの社会基盤施設に親しむまでもなく、このことを本旨としたので、派手な準備は一切避けて、また参加費も通常のこの種の大会よりははかばかしく低く抑えて、ボランティアによる手作りの大会とした。

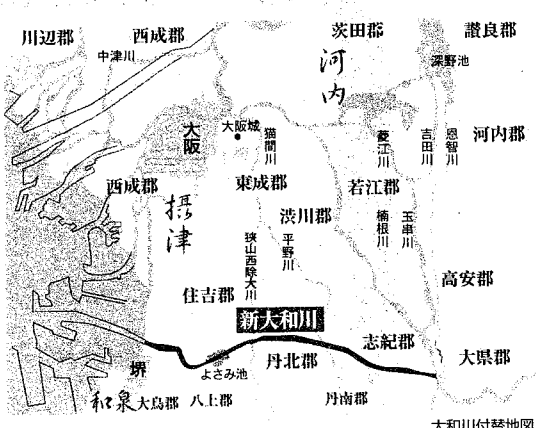
10月3日の日曜日のまだ朝も明けやらぬ午前6時半、大和川右岸にある柏原市役所のすぐ下流側、開削当時と古大和川の河道を比べるために築堤された「開削上」にある中甚兵衛像前を招待選手1人を含む42人がいっせいに出発して大会は始まった。招待選手は、この種の大会には常連である佐藤光子、内藤青児両氏と三遊亭楽松師匠である。当日は、前日までの蒸し暑い気候がワンの条件となっていて、全員が元気に駆け出した。

ランナーの中には、カッパやサルのコスチュームを着けた人もいて、沿道の注目を集め、それだけでも親しみを覚へてもらえる楽しい大会となった。

山脈山麓には野崎観音がある。江戸時代から明治期にかけて、船が川沿いの徒歩から大阪近くの徳庵から履屋川をさかのぼって参る野崎参りや大阪の人々の人気をよんだ。船と川沿いから軽口を掛け合う風習は今に至るも人々の記憶の中にある。またこのあたりは、海底・湖底・池底であったので、地勢的条件が現代に至っても影響を及ぼし、1972年の履屋川支流の谷田川の氾濫により「大東水害訴訟」が起された土地である。ちなみにこの訴訟は、2年後の74年に多摩川が破壊して起された「多摩川水害訴訟」と並んで日本の水害訴訟上有名な裁判となっている。コースはその直後、履屋川治水緑地を抜けるが、ここは埋戻しにより組んでいたが、その後かなりさびに開削までは深野池があったことである。当時の池近く生駒

THE KENSETSU TSUSHIN SHIMBUN 建設通信新聞 Architects, Constructors & Engineers. 2004年(平成16年)10月25日(月曜日) (第三種郵便物認可)

それは、1704年10月、今から300年前のことでした。



かつて、大和川は、柏原から現在の八尾市・東大阪市あたりを流れて、大阪城付近で淀川とつながっていました。たびたびの洪水を解消するため、工事によって松原市・堺市あたりに向かって流れを替えたのが今の大和川。洪水の解消のみならず、旧川筋が新たな農地として開発され、わたしたちの産業を支えてきました。一方で、新たな川筋によって村が分断されたり、諸外国の窓口であった堺港が衰退したりしました。数々の変化をもたらした、大和川の付替えから、2004年10月で300周年。



この山を越えれば京田辺市に入ることや、50km地点となり、軽食類が供給されるポイントがある。ランナーはバナナを食ったりジュースを飲んだり、あるいは筋肉を揉み解したりして一休した。そのあと、今度は南下して巨大な超モダンな京阪奈学園都市をやり過ぎた後、大和路の雰囲気を感じていて曲がっていった小道を通る。その後は、平城宮跡の広大な広場と朱雀門、平城京遺跡に整備された秋篠川(大和川一支流)と唐招提寺、薬師寺と、近代と近世のコースを歩く。このコースを歩く走りぬけたが、1位の栗山さんはゴールに午後4時に到着した。91分を9時間半で走り抜けたので、時速10kmのペースとなり、驚異的なビッチといえるが、それよりも驚かされたのは、すでに社会経験豊かな氏のランナー歴がまだ数年であることだ。今回の大会は大阪らしい運営も好評であった。来年度以降も同じコースで大会を計画しているが、この大会がより親しまれるように今後も頑張りたい。

あるいは古代の社会基盤や事物がとって印象的であられるものであった。その理由で、トップで走りぬけた栗林氏や、徹底して「川筋」にこだわった今回のコースでは、風光明媚で豊かな景観が連続するところや、道路のみを走り抜けたコースとは一味も二味も違った印象を持っていたことである。

鳥影社発行 ノンフィクション 「掘るまいか 山古志村に生きる」

三宅 雅子 著

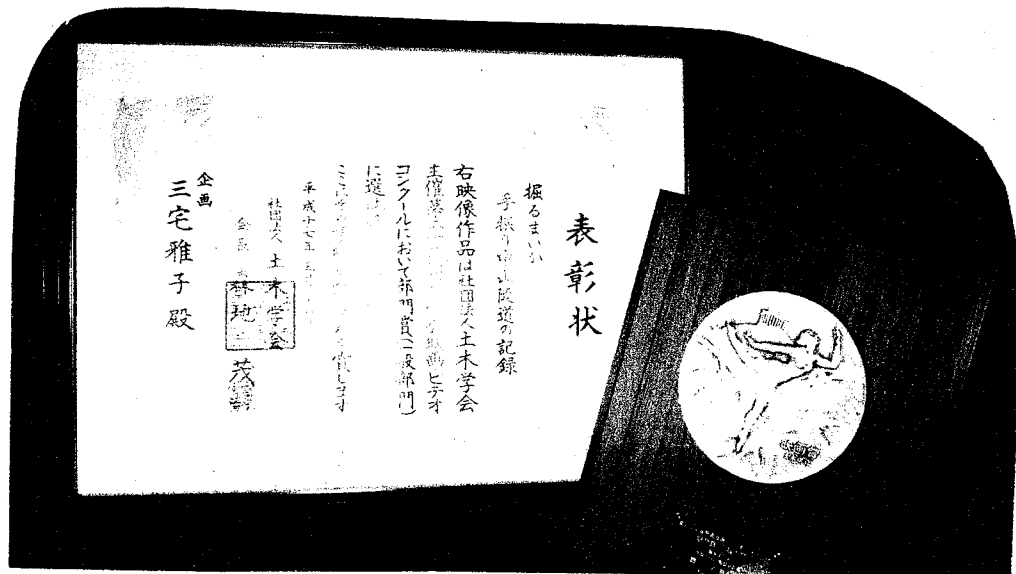
本文抜粋

ならば、自分たちの手で隣町へ出る道を切り拓くしかない。生活や生命がかかっているのだ。だがその行く手には、海拔四百メートルの山が居座っていた。「道が欲しい」という長い間の熱望が結集し、村民が力をあわせ、昭和八年から十六年の歳月をかけて、中山峠のとてっ腹に、手掘りで約一キロのトンネルの道をぶち抜いた。「中山隧道」である。まさに、昭和の青の洞門だ。

あとがき抜粋

そこで私は考えた。これは映像にしよう。映画の方が、手掘りのつるはしの痕が鮮明に目で見られる。私はさっそくシナリオを書いた。今岡氏は映像化したいという私のプランに始めは驚いておられたが、協力して映画学校の武重邦夫理事に会い、私は懸命に映画化を頼みこんだ。おかげで優秀な橋本信一監督に恵まれた。まったく、今になって考えると、映画制作の資金もなく、映画会社へのコネもない、あるのは映像化したいという情熱（おもい）だけ。まったく無謀としか言いようがないが、その時は映画化に向けて真剣だった。武重氏たちもそれらのことを知っていたのに、映像化に向けて動いて下さった。

この手掘り中山トンネルは、人々を魅きつけ動かす何かがある。



第二十一回 土木学会映画・ビデオコンクール部門賞表彰状「掘るまいか 手掘り中山隧道の記録」企画 三宅雅子

豪雪の山村・新潟県山古志村。

つるはし一つでトンネル掘りに立ち向かった村人たちの
16年におよぶ精神とエネルギーの記録。

手掘り中山隧道の記録

監督 橋本信一

「第1回 文化庁記録映画 優秀賞」

「文部科学省選定映画」



芸術文化振興基金助成事業

企画—— 巨宅雅子
プロデューサー—— 武重邦夫
中川邦彦
構成—— 橋本信一
押田興将
撮影—— 松根広隆
VE—— 小島尚大
川路 謙
照明—— 山崎啓史
美術—— 小山田千春
山形哲也
編集—— 小島俊彦(岡安プロモーション)
ナレーター—— 岡部政明
制作協力—— 新潟県山古志村
中山隧道保存会
日本映画学校
山古志村の皆さん
村外ボランティアの皆さん
制作統括—— 今岡亮司
技術監修—— 山岸俊男
制作—— 山古志村隧道文化基金
『手掘り中山隧道の記録』制作委員会
ワイヤードワークスプロジェクト

公開試写会 開催！ 入場無料

合意形成プロセス

とは、「何らかの政策案件等に対して、利害関係者を特定し、同意に至るプロセス設計を行い、多数の利害関係者が同意できる案を検討・評価・提案すること」、

「政治学・社会学・心理学・倫理学等の知見を生かす能力／土木計画の専門性を有する能力／社会資本整備を評価する能力／プロセス設計能力／公正な倫理観を持つ／大学の知・民間の技術力・住民の知恵を生かす能力／コミュニケーション能力／建設マネジメント能力」

が必要である。

藤原正彦著『国家の品格』がベストセラーになっている。近年のわが国における格差など社会問題の元凶はアメリカ流の市場原理主義であると断定し、この解決には、新渡戸稲造の「武士道」の精神とりわけ「惻隱の情」を取り戻すことが必要であるとの主張である。つまり、不幸にして戦いに敗れた者への配慮であり、弱者への思いやりと共感が必要であると述べている。共感する部分もあるが、本当にそうかと思う部分もある。

さて、『国家の品格』をもち出すまでもなく、わが土木は戦後一貫して、地域間の格差をなくすべく、国土の均衡ある発展に貢献してきたのではないかと思う。すなわち、戦後復興から高度経済成長期、安定成長期において、土木事業は経済政策の目的である国民所得の最大化と地域格差の最小化を達成するために、食料増産、治山・治水、交通、エネルギーなど社会基盤の整備を通して大きな役割を果たしてきたと評価できる。ただし、バブル形成・崩壊期は、土木にとって大きな痛みを伴い、いまでもその影響が残る10年であったのではないか。今後の教訓とすべきであろう。

一方、住民問題、環境問題、談合問題など社会的争点となった事業も少なくない。成田空港、長良川河口堰、中海干拓、脱ダム宣言など難産の末完成したプロジェクト、中止に追い込まれたプロジェクトなど少なくない。厳しい財政事情とあいまって、土木事業への

土木の品格

NPO 社会工学研究所理事長
本誌編集委員

須田 日出男

逆風は依然根強いように見受けられる。残念なことは、土木事業が果たす役割まで否定されるような論調・世論に出会うことがある。このような風潮に歯止めをかけるために前記のような問題が発生したとしても、必要性への説明責任を、土木に携わるすべての人があらゆる機会を通して果たしていくべきではないだろうか。

常套手段である広辞苑によれば、「品格―品位・人に自然にそなわっている人格的価値」となっている。人の成長に感じて、その人を取り巻く自然環境、社会の影響も含めて自然に備わる人格的価値とでも理解されようか。少々強引かもしれないが、私はこれを「土木に自然にそなわっている土木的価値」と読み替えたい。戦後一貫して国民生活に貢献してきた土木構造物には、人々の生活に欠かせない土木的価値があり、今後においても、国民に対して安心・安全で快適な国土空間を創造する義務があるのではないだろうか。

土木施設のもつ効果・機能は、ほかの産業で置き換えることのできないものであり、今後とも重要であることは論を待たない。ただし今までの同様な手法でという訳にはいかないだろう。計画面での充実、透明性、公平性の確保などを進め、今までの順風と逆風の教訓を生かして、社会的視点を通じた土木的価値を創造していく「土木の品格」にこだわるのが、土木の良好な社会的認知を得るよい方法であると思うがいかがだろうか。

東京工業大学 日下部 治

Engineering Design

とは、「必ずしも解が一つでない課題に対して、種々の学問・技術を統合して、実現可能な解を見つけ出していくこと」、

「**構想力／問題設定力／種々の学問、技術の総合応用能力／創造力／公衆の健康・安全、文化、経済、環境、倫理等の観点から問題点を認識する能力、およびこれらの問題点等から生じる制約条件下で解を見出す能力／構想したものを図、文章、式、プログラム等で表現する能力／コミュニケーション能力／チームワーク力／継続的に計画し、実施する能力**」

が必要である。

インタビュー 領空侵犯

——来年から六十歳の仲間入りをする団塊世代に「静かに退場を」と呼びかけています。

「会社の重役のポストにしがみつくとか、天下りとか、自分の雇用確保にばかり走らず、後輩に道を譲ってほしい。成熟社会ではパイが限られているわけですから」

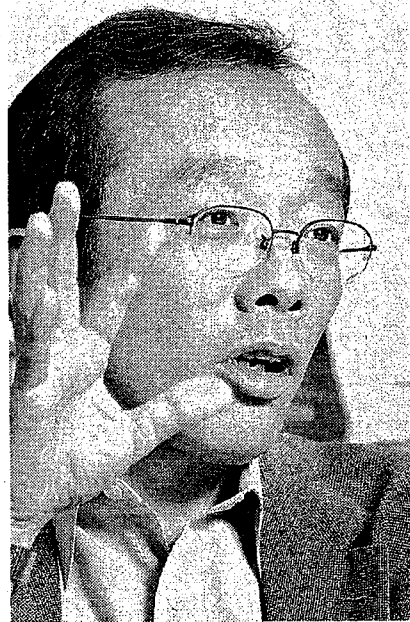
——私も団塊世代。我々が一斉に退場したら、企業は労働力不足になるばかりか、技術の伝承も難しくなるのではないのでしょうか。

「本当に必要な技術や才能を持った人は、黙っていても

団塊世代は静かに退場を

東京都杉並区立和田中学校長

藤原 和博氏



ふじはら・かずひろ 55年生まれ。東京大経済学部卒業後、リクルート入社。新規事業担当部長などを歴任し、93-94年ロンドン大客員研究員としてヨーロッパ人のライフデザイン観を研究。03年杉並区立和田中学校の民間人校長に。

美しい人生モデル見たい

雇用延長を請われるでしょう。私が多くの団塊世代に求めるのは、残された二、三十年を情性で生きるのではなく、新たなモードで生きて美しい第二の人生モデルを示してほしい、ということなんです」

——美しいとは。
「例えば日本の社会が置き

去りにしたり、壊したりしてきた農林漁業と地域コミュニティを再生し、日本型の成熟社会を切り開く先導役として貢献することです」

——確かに水田や森など農林漁業の現場は人手不足で荒れています。
「日本の食料自給率(カロリー)

リーベースは四〇%まで下がっています。これからの社会を考えると、生命の根源となる食を安全かつ安定的なものにする必要があります。これまで第二次産業、第三次産業を支えてきた団塊世代は、農林漁業を産業化して食料自給率を上げるパワーを秘

めています」
——一方の地域再生にはどんな役割を果たしてほしいのですか。
「地域のコミュニティには、子どもたちの通過儀礼になる祭りなどの行事があり、教育面で大切な役割を果たしていました。それも崩壊。家庭の教育力も低下し、あらゆる教育が学校に押しつけられるようになりました。学力低下の原因は、こんなことも背景になっているのです。問題

我々団塊世代は、数の多さゆえに、消費や貯蓄のマーケットから過剰な期待を寄せられると、嫌悪感を催すことがある。しかし、様々な懸案を抱えた社会を切り開くため、新たな担い手として期待されるなら、悪い気はしない。その辺をつまなくするのだが、この世代を活用するコツかもしれない。
(特別編集委員 足立則夫)

藤原氏ひと言 団塊世代が定年後、新しい生き方を示せば、市民革命を起こせる。

ビーヴ 藤田 俊英

まちづくり方程式 for ボランティア&エンジニア
SSSF (土木“新”工学, 団塊世代, 義勇民) の楽の美の安
= Do! VolunTs 2006
団塊土木義士が土木学会の創造的転換を先駆ける!
ボランティア・エンジニア (VECC) 小委員会 in コンサルタント委員会

活動期間：2006年6月1日より2008年5月31日

活動場所：ボランティア・エンジニア (VE) が活動するフィールド=まちづくり“現場”

活動方針：委員が得意な分野で、VEを旗頭に掲げ、土木“新”工学の一領域を創設する。

委員：藤田 俊英 (委員長, NPO法人ビーヴ理事長)

(抜粋) 木谷 正道 (委員, 東京都, 全国市民活動祭実行委員長)

山本 修 (委員, 山海堂・月刊土木施工誌編集長)

三浦 裕二 (委員, 日大名誉教授, NPO法人都市環境研究会理事長)

今後、土木学会誌等で委員を公募する予定

委員資格：他人の相談に助言・解決できるコンサルタント能力を有し、「義を見てせざるは勇なきなり」を実践できるMI (ミッション・インポシブル) な土木技術者

活動目的：コンサルタント委員会の最新活動分野である「エンジニアリング・デザイン教育」の斬新な成果を、さらに飛躍・発展させて一般社会への公益に繋げるため、社会全般の関心事項である“団塊世代問題”に当てはめ、数年先に大量に発生する退役土木技術者が“一般社会から期待される生き方”に関わる情報・技術の調査・研究、成果の普及、そして研究等の受託などを通じて、土木学会の社会への貢献に寄与する。

活動内容：③VEにおける事業手法、事業システム、事業評価などに関する調査・研究

(抜粋) ④他のVE諸団体との交流・連携など

⑤調査・研究成果の講演、シンポジウム、ネット掲載、出版など

活動行事：当面は、委員長藤田が実践する土木観光事業を土木“新”工学として展開する。

(抜粋) 9月16日～17日 土木学会全国大会に先立ち、琵琶湖一周200km 走開催

9月23日 青山士翁！荒川放水路メモリアスロン往復30km 走開催

11月5日 平城京遷都1300年の関連で大和川30km 往復走開催

11月18日～19日 土木の日に合せ大東京マラソン！水辺観光30km 走開催

12月16日 乱流！薩摩義士&デ・レーケ メモリアスロン42km 開催

問い合わせ：委員長の藤田まで (電話=03-5380-8697)

大和川付替え300周年記念行事で 生駒山麓一周91kmを走る

10月3日の日曜日、「第一回大和川治水の郷91kmマラニック」を古大和川と同様に柏原より北に向かい、河内一京都府南部一奈良一柏原と生駒山麓を一周するコースで開催した。初秋の古大和川沿いの91kmをマラニック形式、すなわち「マラソンとピクニックを併せた気分で楽しく走ろう!」というものである。

まだ陽も明けやらぬ午前6時半、柏原市役所のすぐ下流側、開削当時に古大和川の河道をふさぐために築堤された「築留」上にある中甚兵衛（付替え工事の功労者）像前を42名がいっせいに出発した。

コースは、柏原から恩地川沿いに北上し、往時に中甚兵衛家があった水走を通過してさらに北上する。このあたりは古代まで海が深く入り組んでいたが、その後湖となり、さらに開削までは深野池があったところである。コースはその後、寝屋川沿いに深北緑地を抜けるが、ここはまさしく洪水時の調節池的機能を期待して造成された池である。ランナーは緑地の越流堤を右に見ながら清滝川に入り、交野を通り、東に向かって山を越えれば京田辺市に入る。そして、広大で超モダンな京阪奈学園都市を通過後、大和路の雰囲気が漂っていて曲がりくねった小道を通る。それから、平城宮跡の広大な広場と朱雀門、平城京造営時に整備された秋篠川、唐招提寺、薬師寺と近代と近世あるいは古代の社会基盤や事物が融合した場所を通り抜け、富雄川沿いに走ってよいよ大和川本流に出る。川面に群れる川鵜を見ながら、小さな沈下橋を危なっかしい足取りで渡り、いよいよ最後の難関であり、また地すべり常襲地帯としても有名な亀の瀬を通り抜ければもうゴールの柏原も近い。

ゴール後、多くのランナーが「走っていて楽しい。また走りたい」と述べた。徹底して「川筋」にこだわった今回のコースでは、風光明媚で豊かな景観が連続することとなり、道路のみを走り抜けるコースとは一味も二味も違った印象を持たたということである。

(大阪市立大学 副学長 角野昇八)

(神戸市立神戸工業高等専門学校 教授 辻本剛三)

(特定非営利市民歩行者学会 会長 藤田俊英)



写真 元気に走る参加者

木曾三川河口、100キロランニングで 治水治山の土木インフラを巡る

5月25日、愛知、岐阜、三重の三県にまたがる木曾三川河口の輪中地帯を中心に、「歩いて走って桑名まちづくり」実行委員会が、「第1回桑名まちづくり100キロ&50キロランニング」を開催し、全国各地から80人の老若男女、市民ランナーが参加した。このイベントの開催趣旨は、「宝暦治水の薩摩義士と明治治水のデレーケ技師を偲び、洪水と人間の戦いの歴史を伝える治水治山の新旧土木構造物を走って巡る」である。

コース途中の土木構造物を順に紹介する。スタートとゴール地点は旧東海道の桑名宿、七里の渡し近くの吉之丸コミュニティパーク、揖斐川右岸のスーパー堤防である。国道1号線の伊勢大橋から水資源開発公団の長良川河口堰を渡り、長良川から木曾川の堤防上を20km進み、長島輪中を横切る。27km地点が木曾川と長良川を繋ぐ有名な船頭平閘門公園、デレーケ技師の銅像を見ながら、閘門のゲート上を走り、長良川大橋に出る。

長良川堤防中段の自転車道から海津町を横切り、揖斐川堤防に沿って福岡大橋を渡る。養老山地の東側斜面に残されたデレーケ技師縁の巨石積み堰堤が連続する羽根谷だんだん公園を過ぎて標高600mの二之瀬峠が50km地点、60kmを過ぎてロックフィル、の中里ダムの堤頂を約1km走る。87kmから3km、多度川河川敷の遊歩道の親水景観を楽しみ、ラスト約10kmは揖斐川右岸堤防道路を南風に逆らってゴールに向かう。

コース100kmの内、50km弱が治水治山に因む土木構造物のため、これらを所管する国土交通省木曾川下流河川事務所、水資源開発公団長良川河口堰管理所ならびに三重用水管理所、三重県北勢県民局桑名土木事務所からは理解ある支援をいただいた。また、実行委員会メンバーの東京大学名誉教授の高橋裕先生、大阪市立大学の角野昇八先生、デレーケを主人公とした名作『乱流』の著者・三宅雅子さんらが、コース途中でランナーを声援した。

中部国際空港が開港する明後年の2005年春は、薩摩義士の手になる宝暦治水事業の竣工250年記念の春でもある。木曾三川河口、治水治山の土木インフラは世界各地から多数の観光客を呼び寄せる観光インフラにもなる。今後もこのイベントを開催し、作られた構造物を「使う技術」を蓄積し、土木構造物に観光価値を創造して、観光中部の一助になりたいと思う。

(市民歩行者学会連絡先=03-5380-8697)

特定非営利活動法人 市民歩行者学会 (CRew) 会長
土木学会コンサルタント委員会 委員・幹事 藤田俊英



写真 船頭平閘門ゲート上を走る女性ランナー

Information

土木学会 コンサルタント委員会 活動のご案内

コンサルタント委員会では第X期（平成18-19年度、委員長：日下部 治 東京工業大学大学院教授）の活動として、コンサルティング・サービスに係わる以下の小委員会活動を実施しています。また、教育企画・人材育成委員会との共同による、平成18年度土木学会重点研究課題に採択された「Engineering Design 教育で有効活用される教育プログラムおよび教材内容の研究」や、(独法)人科学技術振興機構[JST]からの受託研究のための特別小委員会活動も併設し、やりがいのある各種の調査・研究活動を積極的に実施しています。

第X期活動は本年5月にスタートしたばかりで、これから参加いただいても十分間に合います。これらの活動に関心をお持ちの方ならば、土木学会員であることやコンサルタントに所属する方に限らず、幅広い分野からの委員参加を求めています。委員会活動へ参画ご協力いただける方は下記学会事務局とコンタクトをおとりください。

コンサルタント委員会 Home Page : <http://www.jsce.or.jp/committee/kenc/>

No.	小委員会・特別委員会名(略称)	委員長
小委員会	プロフェッション研究小委員会	大野博久 (株)オリエンタルコンサルタンツ
	合意形成研究小委員会	上野俊司 (株)現代文化研究所
	設計役割研究小委員会	梶木洋子 アジア航測(株)
	Volunteer Engineer CC 小委員会	藤田俊英 NPO法人ビーヴ理事長 *当研究討論会の企画運営
	環境問題研究小委員会	石川 一 (株)ドーコン
特別委員会	Engineering Design 教育 特別小委員会	駒田智久 日本技術開発(株) *H18年度JSCE重点研究課題, 教育企画・人材育成委員会との共同研究
	Web教材作成特別小委員会	上野俊司 (株)現代文化研究所 *H18年度JTS受託研究課題
	海外対応特別小委員会	広瀬典昭 当委員会副委員長, 日本工営(株)

お問い合わせは土木学会事務局(研究事業課 川島宛)へ

Tel : 03-3355-3559, Mail : kawashima@jsce.or.jp

平成 18 年度 全国大会 研究討論会 (2006/9/20) 土木学会コンサルタント委員会

「技師から義士へ！ 退任土木技術者はボランティア・エンジニア」



MEMO :